

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

1 学校教育目標	(1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成
2 現状の分析	○基本的生活習慣の充実を目標に、全校体制で遅刻防止指導に力を入れてきた。キャンペーン活動である「遅刻0週間」を「遅刻0習慣」へとさらに推し進めた。昨年度に比べ若干遅刻者数は増加したが、落ち着いた学習環境が確立されている。 ○基礎学力向上を目指し、始業前に10分間の朝学習時間を設けた。基礎学力判定テストにおいて有意な効果が認められた。 ○基礎学力の定着を目指し各教科で積極的な取組が見られた。ICTを活用したわかりやすい授業について研究し実践する教員が増えた。 ○国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業芸術(美術)」の研究指定を受け、題材開発、指導方法及び学習評価の研究を行った。 ▲学科間、またクラス内でも生徒個々の学力差が大きく、実態の把握ときめ細かな指導が必要となっている。
3 学校の抱える課題	・地域に貢献できる工業技術者の育成を目指した高校として、社会のニーズと生徒の進路希望の両立を図る取組が必要である。 ・地元企業から優秀な人材の育成が望まれる中、コミュニケーション能力や基礎学力不足の生徒への指導の在り方検討する必要がある。 ・多様化する生徒に対し、個別に合理的な指導方法を作成し、かつ全職員で共通理解を図る必要がある。 ・部活動や資格取得など、授業以外の諸活動において、より一層意欲的な取組みが求められる。 ・挨拶や身だしなみ、交通安全やSNSの適切な使用など、ルールやマナーの向上を図るための有効な指導方法の検討が必要である。
4 今年度の具体的な重点目標	1 遅しく生き抜くための基礎学力の定着と、専門知識・技能の習得を図る「チームワークでつくる可児工の確かな教育力」 2 社会人としてのマナーやモラルを身につけた生徒の育成「生徒のことを思いやる心と共感的な生徒理解」 3 地域社会や地域産業から期待され、信頼される学校づくり 4 将来、地域社会で多様な人々と働くために必要な社会人基礎力を身に付けていく。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教育課程 学習指導	①基礎・基本の定着を徹底する ②授業改善を目的に研修を充実	①診断テストの実施 ②生徒アンケートの分析	①基礎学力診断テストの分析 ②公開授業週間や職員研修の開催	B B	○ICT機器の積極的な活用 と新しい指導法の研究	A B C D
キャリア教育 進路指導	①進路ガイダンス機能の充実 ②主体的な進路選択意識の醸成	①就職希望者全員の内定確保 ②就職・進学活動の積極性	①外部講師の協力を得て5回以上実施 ②ポートフォリオの実施方法の検討と試行から進路選択に明確な目標を持たせる事	B B	○3年間を見通したキャリア教育の充実	
生活指導 コミュニケーション能力 の育成	①多様な生徒に対応できる、指導 法の研修と実践 ②基本的な社会マナーの定着	①個人のスキルアップと組織 としての指導力の向上 ②外部からの評価	①カウンセラーの活用とQU検査の職員 研修 ②各種イベントへの積極的な参加	B A	○生徒が悩みを気軽に相談 できる仕組みの構築 ▲自立力を高める指導	
			12 来年度に向けての改善方策案			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月13日

・授業を聞く態度も良い。発表する生徒は、パソコンを使い堂々としていた。
・保護者へアピールも大事。工業高校生の活動を、中学生・保護者に来校してもらうか、出向きもっとPRするのもよいのではないかと。
・知る・体験することが大事なので、企業フェアなどもっと参加させてはどうか。保護者向けに説明会も実施できれば効果的である。

・「地育地就」をめざし、地元企業の魅力を生徒・保護者に知る機会を検討・実施する。
・基礎学力の定着に向けて、AI型授業等実施し、生徒の発表の場を計画的に位置づける。
・より挨拶がしつかりでき、明るく元気な生徒となるように働きかける。
・働き方改革と県部活動ガイドラインを踏まえ、部活動指導の在り方の検討をする。
・多様な生徒対応のため、支援員や外部との連携を図り、教育相談体制を強化する。